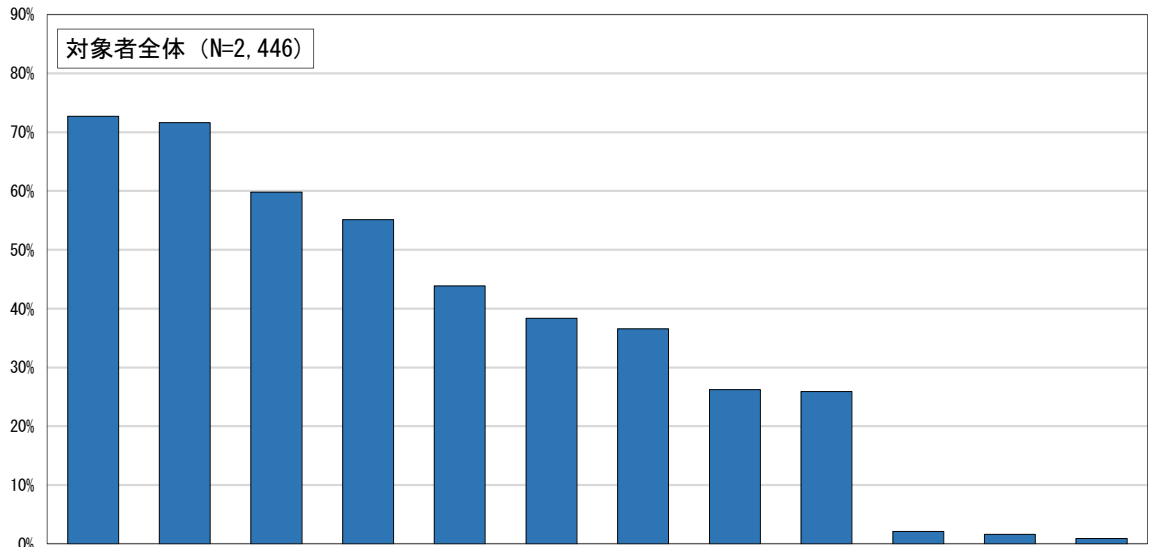


## (2)食の安全・安心について

### ◇食生活を送るうえの関心事

問3 あなたが、食生活を送るうえで関心があることについて、次の中からあてはまるものにいくつでも○をつけてください。

食生活を送るうえで関心があることは“賞味期限・消費期限表示”が72.7%



		対象者数	賞味期限・消費期限表示	衛生管理	産地表示	食品添加物	品質管理	残留農薬	食中毒予防	アレルギー表示	放射性物質	その他	食品の安全性に関心がない	無回答
対象者全体		2,446	72.7	71.6	59.8	55.1	43.9	38.4	36.6	26.2	25.9	2.1	1.6	0.9
性別	男性	993	69.1	68.0	53.3	45.4	42.5	31.4	33.0	23.0	21.8	2.2	3.0	0.7
	女性	1,421	75.9	74.5	64.6	62.1	45.0	43.3	39.4	28.4	28.8	1.9	0.7	0.8
	その他	8	50.0	75.0	62.5	62.5	50.0	50.0	25.0	62.5	25.0	0.0	0.0	0.0
年代別	29歳以下	194	69.1	63.9	42.3	38.7	34.0	21.6	37.1	29.9	18.0	1.0	3.6	1.0
	30～39歳	239	75.7	72.0	57.3	51.5	39.7	32.6	39.7	31.0	25.5	4.2	1.3	0.0
	40～49歳	372	70.4	70.7	58.1	52.4	42.5	36.0	34.9	25.8	26.1	3.2	2.2	0.0
	50～59歳	416	70.9	72.4	63.5	51.4	43.5	40.6	36.3	23.8	23.6	1.2	1.7	0.0
	60～69歳	470	74.7	73.6	62.6	57.0	47.7	41.3	36.8	25.3	25.3	2.6	1.7	0.9
	70歳以上	719	74.4	72.3	63.0	63.4	46.2	43.0	36.4	25.7	30.0	1.4	1.0	1.8

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】食生活を送るうえで関心があることは、「賞味期限・消費期限表示」が72.7%、「衛生管理」が71.6%、「産地表示」が59.8%となっている。

【性別】「賞味期限・消費期限表示」、「衛生管理」、「産地表示」、「食品添加物」、「残留農薬」、「食中毒予防」、「アレルギー表示」、「放射性物質」は女性が男性より5.4ポイント以上高くなっている。

【年代別】「残留農薬」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

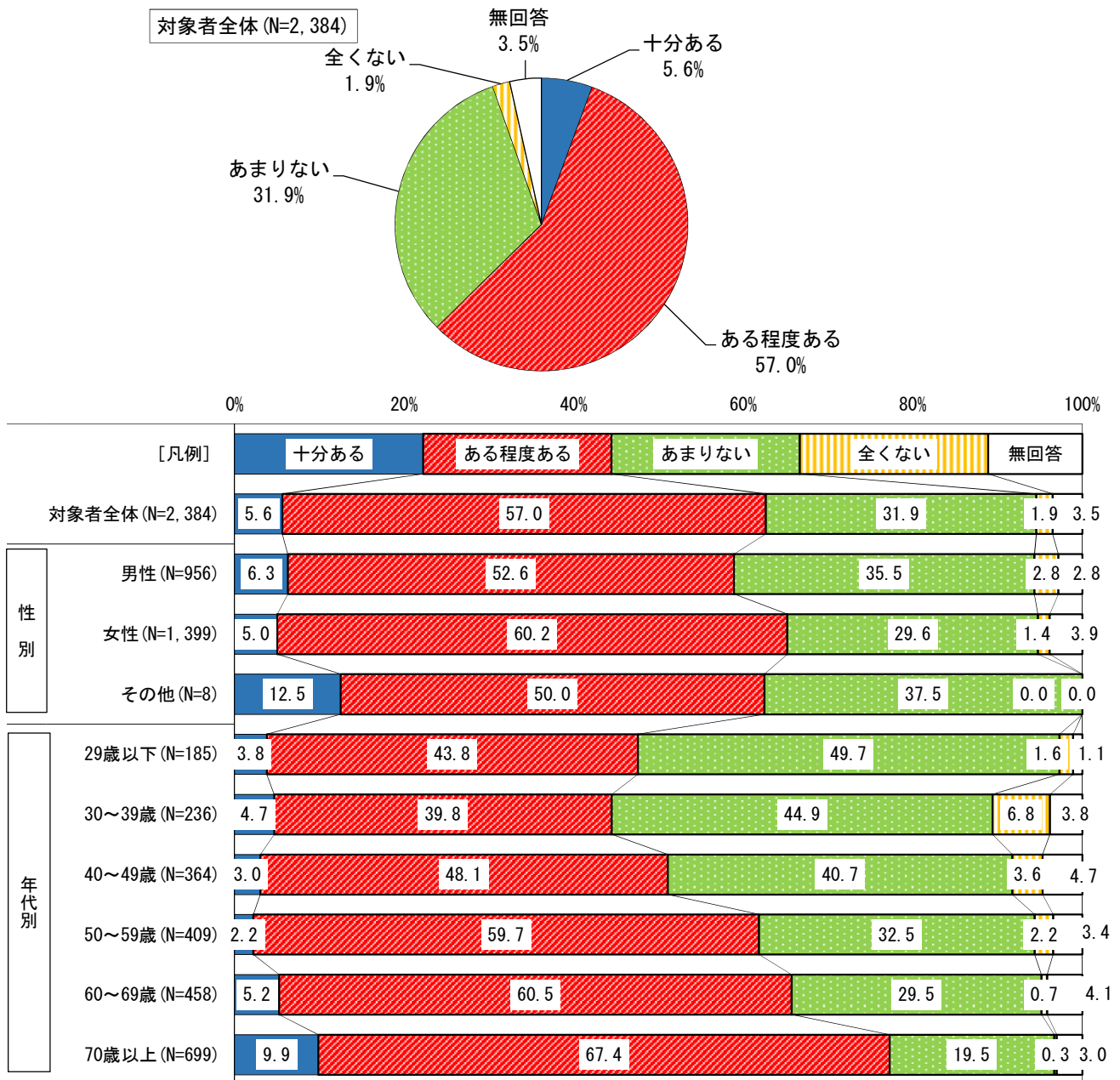
## ◇食品の安全性に関する知識の有無

《問3で「1 衛生管理」から「10 その他」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

**問3-1** あなたは、食品の安全性に関する知識があると思いますか。あなたのお考えにもっとも近いものに1つだけ○をつけてください。

### 食品の安全性に関する知識は“ある”と回答した人が62.6%

※ “ある”（「十分ある」+「ある程度ある」）



【全体】 食品の安全性に関する知識は、「十分ある」が5.6%、「ある程度ある」が57.0%、合わせると62.6%となっている。一方で、「あまりない」が31.9%、「全くない」が1.9%、合わせると33.8%となっている。

【性別】 “ある”は女性が65.2%と、男性の58.9%より6.3ポイント高くなっている。また、“ない”（「あまりない」+「全くない」）は男性が38.3%と、女性の31.0%より7.3ポイント高くなっている。

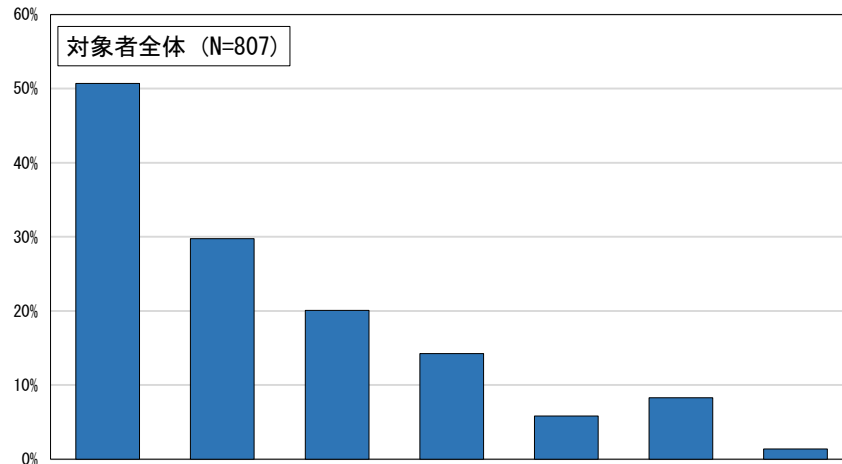
【年代別】 “ある”は70歳以上（77.3%）で最も高く、次いで60歳代（65.7%）、50歳代（61.9%）となっている。

◇食品の安全性に関する知識がない理由

《問3-1で「3 あまりない」または「4 全くない」と答えた方にお聞きします。》

問3-2 あなたが、食品の安全性に関する知識がないと思う理由について、次の中からあてはまるもの  
いくつでも○をつけてください。

食品の安全性に関する知識がない理由は、「知る機会がない」が50.7%



		対象者数	知る機会がない	自分で調べたり学んだりしたいとは思わない	調べる方法がわからない	難しく理解できない	調べてみたが、知らない情報が見つからない	その他	無回答
		(%)							
対象者全体		807	50.7	29.7	20.1	14.3	5.8	8.3	1.4
性別	男性	366	49.5	35.5	18.3	12.3	5.7	7.4	1.6
	女性	433	52.0	24.9	21.9	16.2	6.0	8.3	1.2
	その他	3	33.3	66.7	-	-	-	33.3	-
年代別	29歳以下	95	58.9	32.6	12.6	16.8	2.1	3.2	2.1
	30~39 歳	122	54.9	27.9	13.1	13.9	4.1	13.1	1.6
	40~49 歳	161	47.8	27.3	16.1	15.5	9.3	6.2	1.2
	50~59 歳	142	47.9	32.4	21.1	12.7	5.6	10.6	0.7
	60~69 歳	138	50.0	27.5	25.4	11.6	5.1	8.7	2.2
	70 歳以上	138	48.6	32.6	31.2	15.2	7.2	6.5	0.7

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全 体】食品の安全性に関する知識がないと思う理由は、「知る機会がない」と回答した人が50.7%、「自分で調べたり学んだりしたいとは思わない」が29.7%、「調べる方法がわからない」が20.1%となっている。

【性 別】「自分で調べたり学んだりしたいとは思わない」は男性が35.5%と、女性の24.9%より10.6ポイント高くなっている。

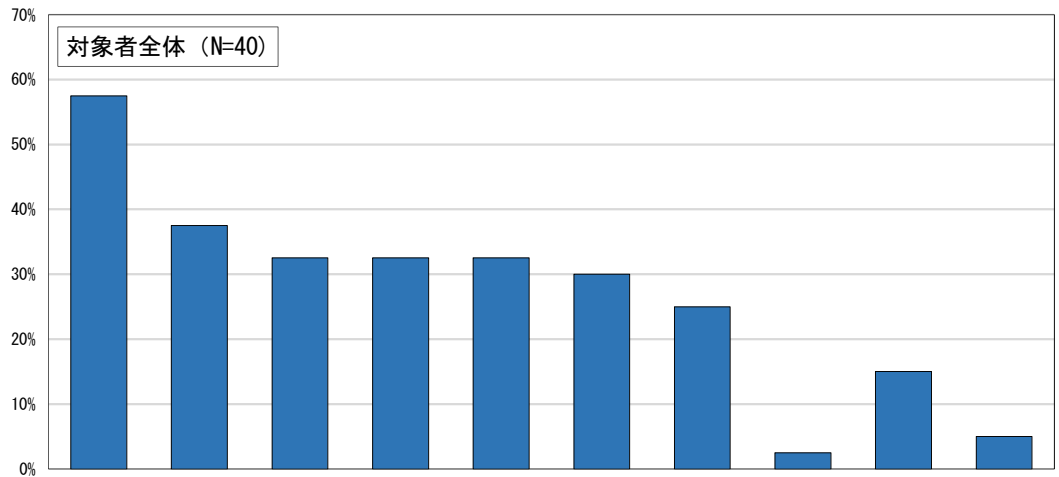
【年代別】「調べる方法がわからない」は年代が上がるにつれて割合が高くなっている。

◇食品の安全性に関心がない理由

《問3で「11 食品の安全性に関心がない」と回答した方にお聞きします。》

問3-3 あなたが、食品の安全性に関心がない理由について、次の中からあてはまるものにいくつでも○をつけてください。

食品の安全性に関心がない理由は、「実生活で困ったことがないから」が57.6%



対象者数 (%)		から実生活で困ったことがない	安全だと考えているから	食品の生産者や製造者を信頼しているから	アレルギーなどの健康面での心配がないから	食中毒・食あたりなどの被害にあった経験がないから	店で提供されている料理は安全だと考えているから	おいしさや価格を優先するか	その他	特に理由はない	無回答	
対象者全体	40	57.5	37.5	32.5	32.5	32.5	30.0	25.0	2.5	15.0	5.0	
性別	男性	30	63.3	33.3	30.0	30.0	26.7	30.0	20.0	3.3	16.7	3.3
	女性	10	40.0	50.0	40.0	40.0	50.0	30.0	40.0	-	10.0	10.0
	その他	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	7	42.9	42.9	28.6	28.6	42.9	28.6	42.9	-	-	14.3
	30～39歳	3	33.3	66.7	66.7	33.3	66.7	66.7	33.3	-	-	-
	40～49歳	8	62.5	37.5	37.5	25.0	25.0	25.0	25.0	-	25.0	-
	50～59歳	7	57.1	14.3	14.3	14.3	28.6	14.3	14.3	14.3	14.3	-
	60～69歳	8	100.0	62.5	62.5	75.0	37.5	62.5	37.5	-	-	-
	70歳以上	7	28.6	14.3	-	14.3	14.3	-	-	-	42.9	14.3

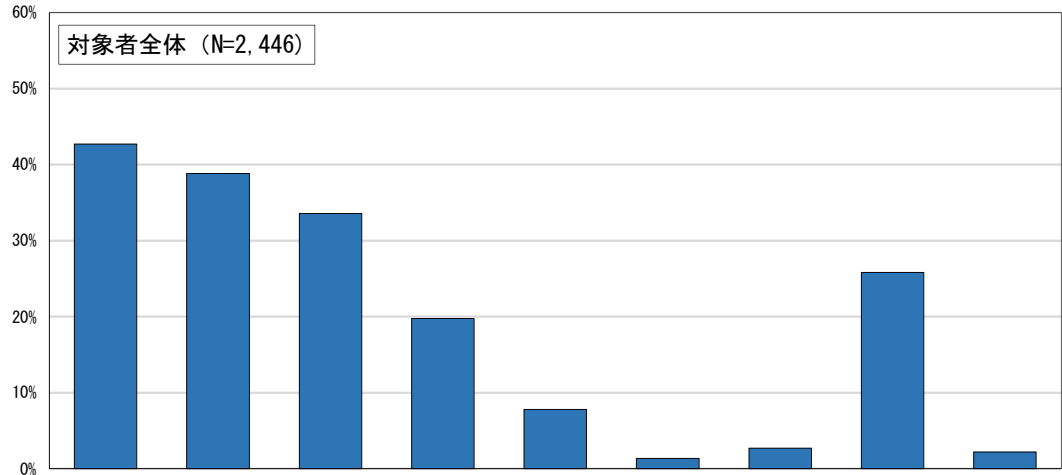
■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】食品の安全性に関心がない理由は、「実生活で困ったことがないから」が57.5%、「一般に流通している食品は安全だと考えているから」が37.5%、「食品の生産者や製造者を信頼しているから」、「アレルギーなどの健康面での心配がないから」、「食中毒・食あたりなどの被害にあった経験がないから」が32.5%となっている。

◇食の安全・安心の確保のためにしている行動

問4 あなたが日ごろ食の安全・安心の確保のためにしている行動について、次の中からあてはまるものにいくつでも○をつけてください。

日ごろの食の安全・安心の確保のためにしている行動は、「食品表示に関する必要な知識を身に付け、商品を選択する（購入する）」と回答した人が42.7%



		対象者数	食品表示に関する必要な知識を身に付け、商品を選択する（購入する）	メーカーの商品を選択する（利用・購入する）	食の安全・安心に力を入れているお店を選択する（利用・購入する）	インターネット・ネットサイトで情報やインタビューを収集する	国や札幌市のホームページ・広報物を見て、知識と理解を深める	食の安全・安心に関するイベント等に参加する	その他	特に何もしていない	無回答
		(%)									
対象者全体		2,446	42.7	38.8	33.6	19.7	7.8	1.3	2.7	25.8	2.2
性別	男性	993	39.8	31.2	28.5	17.3	7.4	0.8	3.2	31.1	2.2
	女性	1,421	44.6	44.1	37.2	21.5	8.2	1.7	2.3	22.6	2.0
	その他	8	50.0	50.0	50.0	50.0	-	12.5	12.5	-	-
年代別	29歳以下	194	32.5	24.2	16.0	23.7	2.1	0.5	2.6	37.6	2.1
	30～39歳	239	34.7	31.0	23.0	29.3	3.3	0.4	2.1	34.3	1.7
	40～49歳	372	39.8	39.2	30.6	25.5	4.6	1.3	2.2	29.3	1.3
	50～59歳	416	39.4	39.4	31.0	22.4	5.5	1.9	3.4	30.0	1.7
	60～69歳	470	45.1	41.3	37.7	18.9	8.1	1.3	2.3	20.0	2.3
	70歳以上	719	49.2	43.1	42.1	11.5	13.8	1.5	2.9	20.2	2.9

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】日ごろ食の安全・安心の確保のためにしている行動について、「食品表示に関する必要な知識を身に付け、商品を選択する（購入する）」が42.7%、「食の安全・安心に力を入れているメーカーの商品を選択する（利用・購入する）」が38.8%、「食の安全・安心に力を入れているお店を選択する（利用・購入する）」が33.6%となっている。

【性別】「食の安全・安心に力を入れているメーカーの商品を選択する（利用・購入する）」、「食の安全・安心に力を入れているお店を選択する（利用・購入する）」は女性が男性より8.7ポイント以上高くなっている。

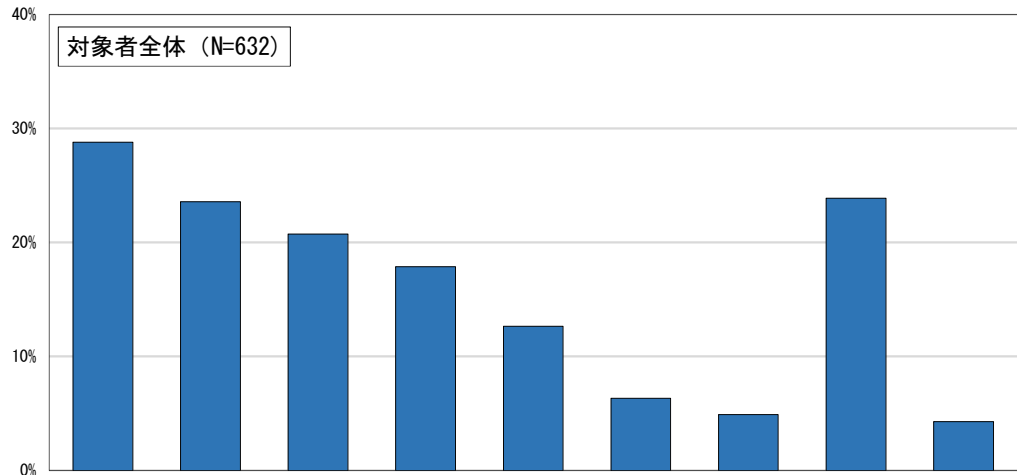
【年代別】「食の安全・安心に力を入れているお店を選択する（利用・購入する）」が70歳以上（42.1%）で最も高く、最も低い29歳以下（16.0%）と比べると26.1ポイントの差となっている。

◇食の安全・安心の確保のための行動をしていない理由

《問4で「8 特に何もしていない」と回答した方にお聞きします。》

問4-1 あなたが、食の安全・安心の確保のための行動をしていない理由について、次の中からあてはまるものにいくつでも○をつけてください。

食の安全・安心の確保のための行動をしていない理由は「食の安全性に不安を感じていないから」と回答した人が28.8%



対象者数		(%)	食の安全性に不安を感じていないから	面倒だから	知識が足りないから	時間がないから	興味や関心がないから	メリット（利点）を感じないから	その他	特に理由はない	無回答
対象者全体		632	28.8	23.6	20.7	17.9	12.7	6.3	4.9	23.9	4.3
性別	男性	309	30.4	25.9	18.8	14.2	16.5	8.7	6.8	20.1	3.9
	女性	321	27.4	21.5	22.7	21.5	9.0	4.0	2.8	27.4	4.7
	その他	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	73	35.6	28.8	16.4	24.7	19.2	5.5	4.1	9.6	1.4
	30～39歳	82	23.2	39.0	25.6	29.3	18.3	4.9	8.5	15.9	2.4
	40～49歳	109	34.9	30.3	19.3	27.5	17.4	9.2	2.8	18.3	1.8
	50～59歳	125	20.0	20.0	24.0	18.4	13.6	6.4	4.0	29.6	4.8
	60～69歳	94	33.0	20.2	21.3	7.4	8.5	8.5	6.4	25.5	4.3
	70歳以上	145	29.0	13.1	17.9	6.2	4.1	4.1	4.8	33.8	8.3

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】食の安全・安心の確保のための行動をしていない理由は、「食の安全性に不安を感じていないから」が28.8%、「面倒だから」が23.6%、「知識が足りないから」が20.7%となっている。

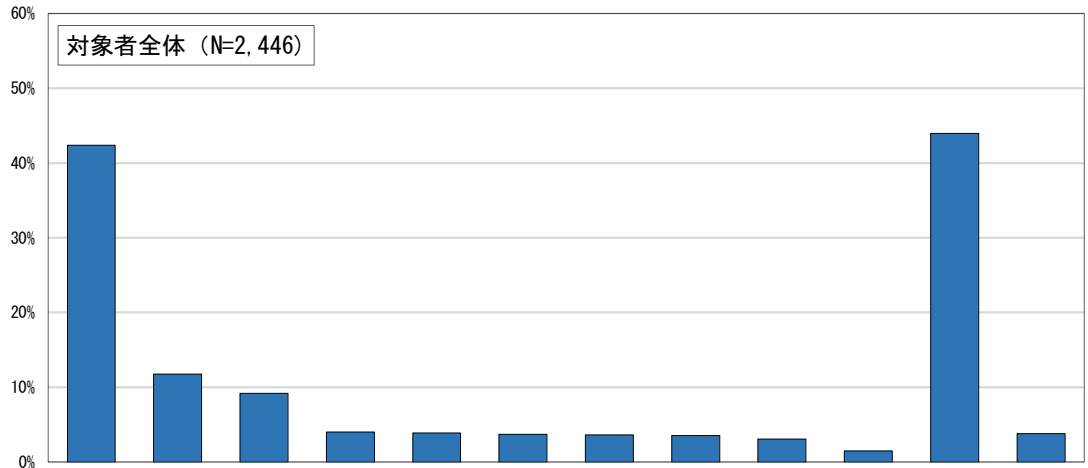
【性別】「時間がないから」は女性が21.5%と、男性の14.2%より7.3ポイント高くなっている。また、「興味や関心がないから」は男性が16.5%と、女性の9.0%より7.5ポイント高くなっている。

【年代別】「面倒だから」が30歳代(39.0%)で最も高く、次いで40歳代(30.3%)、29歳以下(28.8%)となっている。

◇食の安全・安心を目指した札幌市の条例等で知っている内容

問5 「安全・安心な食のまち・さっぽろ」を目指して策定・実施している、札幌市の条例・計画・制度・事業などについて、あなたが知っているものにいくつでも○をつけてください。

食の安全・安心を目指した札幌市の条例等で知っている内容は「食中毒警報・ノロウイルス食中毒注意報・警報」と回答した人が42.4%



対象者数	食中毒警報・ノロウイルス食中毒注意報・警報 (%)	さっぽろ HACCP (ハサップ) (%)	札幌市安全・安心な食のまち推進条例 (%)	アレルギー原因食品(アレルギー)ピクトグラム(絵文字) (%)	食の安全・安心おもてなしの店推進事業 (%)	食品衛生監視指導計画 (%)	しろくま忍者の手あらいソング (%)	さっぽろ食の安全・安心推進協定制度 (%)	第2次安全・安心な食のまち・さっぽろ推進計画 (%)	さっぽろ食の安全・安心モニター事業 (%)	知っているものはない (%)	無回答 (%)
対象者全体 (N=2,446)	42.4	11.7	9.2	4.0	3.9	3.7	3.6	3.5	3.1	1.5	43.9	3.8
性別												
男性	37.7	11.9	9.1	3.4	3.3	3.7	2.2	3.7	2.7	0.8	49.1	3.5
女性	46.0	11.7	9.4	4.4	4.3	3.7	4.6	3.4	3.4	1.9	40.5	3.7
その他	37.5	37.5	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	25.0	0.0
年代別												
29歳以下	25.8	21.1	4.6	4.1	0.5	2.6	3.1	2.6	0.0	0.0	53.1	1.5
30~39歳	23.4	13.4	4.2	3.8	3.3	4.6	2.9	2.5	0.4	1.3	62.8	2.1
40~49歳	35.5	15.6	4.3	3.2	4.3	1.3	5.1	1.9	2.4	0.0	51.6	1.3
50~59歳	40.1	12.0	4.8	2.4	3.1	1.9	3.8	1.9	1.7	0.5	49.5	2.4
60~69歳	50.2	12.1	9.6	4.3	3.6	3.6	1.7	2.3	3.0	1.9	40.6	2.3
70歳以上	53.3	6.5	17.1	5.3	5.4	6.1	4.5	6.8	6.1	2.9	29.9	7.6

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】食の安全・安心を目指した札幌市の条例等で知っている内容は、「食中毒警報・ノロウイルス食中毒注意報・警報」が42.4%、「さっぽろ HACCP (ハサップ)」が11.7%、「札幌市安全・安心な食のまち推進条例」が9.2%となっている。

【性別】「食中毒警報・ノロウイルス食中毒注意報・警報」は女性が46.0%と、男性の37.7%より8.3ポイント高くなっている。

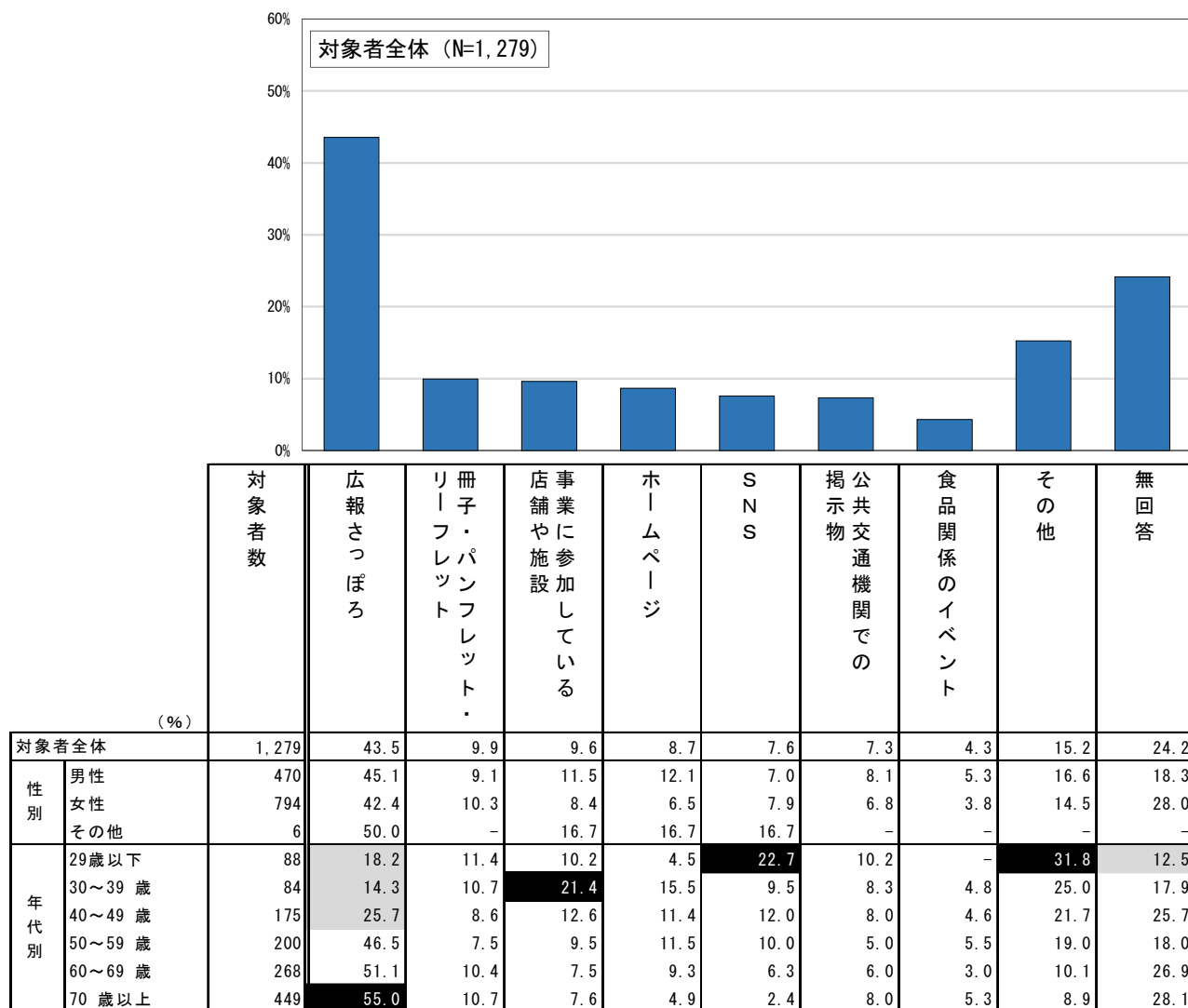
【年代別】「食中毒警報・ノロウイルス食中毒注意報・警報」が70歳以上(53.3%)で最も高く、最も低い30歳代(23.4%)と比べると29.9ポイントの差となっている。

## ◇食の安全・安心を目指した札幌市の条例等の認知方法

《問5で「1 札幌市安全・安心な食のまち推進条例」から「10 アレルギー原因食品（アレルゲン）ピクトグラム（絵文字）」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

問5-1 あなたは、その情報をどのように知りましたか。次の中から、いくつでも○をつけてください。

**食の安全・安心を目指した札幌市の条例等の認知方法は「広報さっぽろ」と回答した人が43.5%**



■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】食の安全・安心を目指した札幌市の条例等の認知方法は、「広報さっぽろ」が43.5%、「冊子・パンフレット・リーフレット」が9.9%、「事業に参加している店舗や施設」が9.6%となっている。

【性別】「ホームページ」は男性が12.1%と、女性の6.5%より5.6ポイント高くなっている。

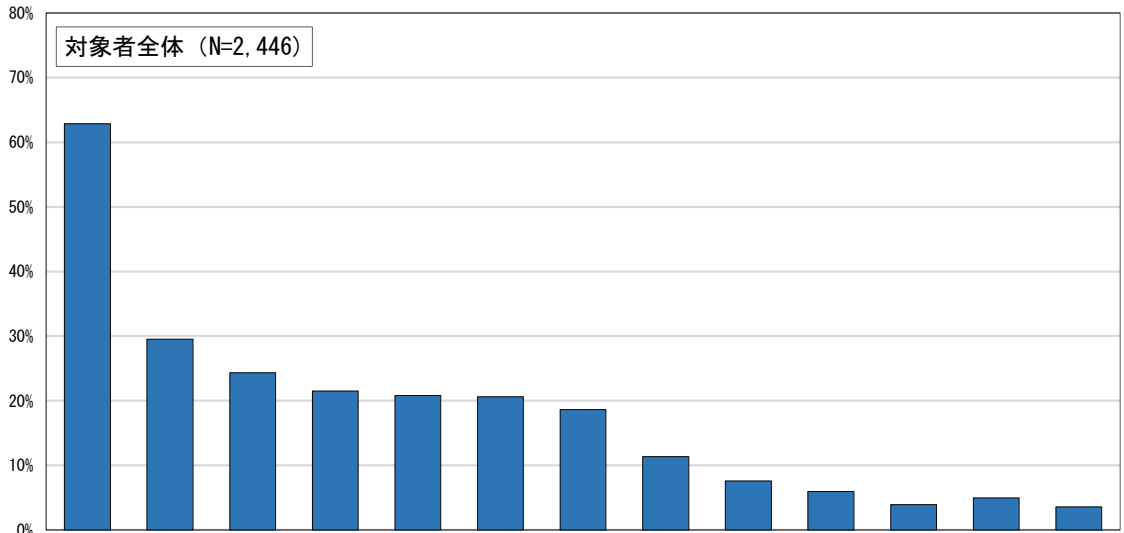
【年代別】70歳以上では「広報さっぽろ」が、29歳以下では「SNS」が最も高くなっている。



◇食品の安全性や札幌市の取り組みに関する情報の取得をしたいと思う方法

問6 食品の安全性や札幌市の取り組みに関する情報について、あなたが受け取りたいと思う方法を、次の中からいくつでも○をつけてください。

**食品の安全性や札幌市の取り組みに関する情報の取得をしたいと思う方法は、「広報さっぽろ」への掲載」と回答した人が 62.8%**



対象者数	「広報さっぽろ」への掲載	地下鉄、路線バス内の広告	の情報誌（タウン誌など）への掲載	JR駅、地下鉄駅でのポスターの掲示	パンフレット・リーフレットの配布	ホームページへの掲載	SNS	地下鉄駅の大型電照広告	イベントの実施	映画上映前の動画CM	メールマガジン配信	その他	無回答
対象者全体 (N=2,446)	62.8	29.5	24.3	21.5	20.8	20.6	18.6	11.3	7.6	6.0	3.9	4.9	3.6
性別													
男性	59.8	26.1	22.8	19.1	17.8	24.6	18.1	10.6	6.4	4.9	3.7	6.6	3.4
女性	65.4	31.9	25.6	23.2	23.2	17.9	19.1	11.8	8.6	6.7	3.9	3.7	3.4
その他	12.5	50.0	-	50.0	-	12.5	37.5	37.5	-	12.5	25.0	12.5	-
年代別													
29歳以下	22.7	53.6	8.2	42.3	7.7	17.0	46.9	27.8	7.2	13.9	1.5	4.1	2.6
30～39歳	38.1	41.0	21.8	32.6	13.8	20.5	41.0	17.2	9.6	15.1	5.4	6.3	2.5
40～49歳	55.6	32.5	26.3	25.5	15.1	29.6	25.8	14.2	9.7	7.8	4.3	4.6	2.4
50～59歳	60.6	33.4	25.7	23.6	21.4	24.0	20.7	9.9	9.4	4.8	5.3	6.5	2.6
60～69歳	73.4	20.2	26.8	13.8	23.8	23.6	10.4	6.8	8.1	4.0	5.5	5.1	3.0
70歳以上	80.9	21.6	26.0	13.8	27.5	12.7	4.0	7.1	4.9	1.7	2.1	3.8	5.3

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】食品の安全性や札幌市の取り組みに関する情報の取得をしたいと思う方法は、「広報さっぽろ」への掲載が62.8%、「地下鉄・路線バス内の広告」が29.5%、「情報誌（タウン誌など）への掲載」が24.3%となっている。

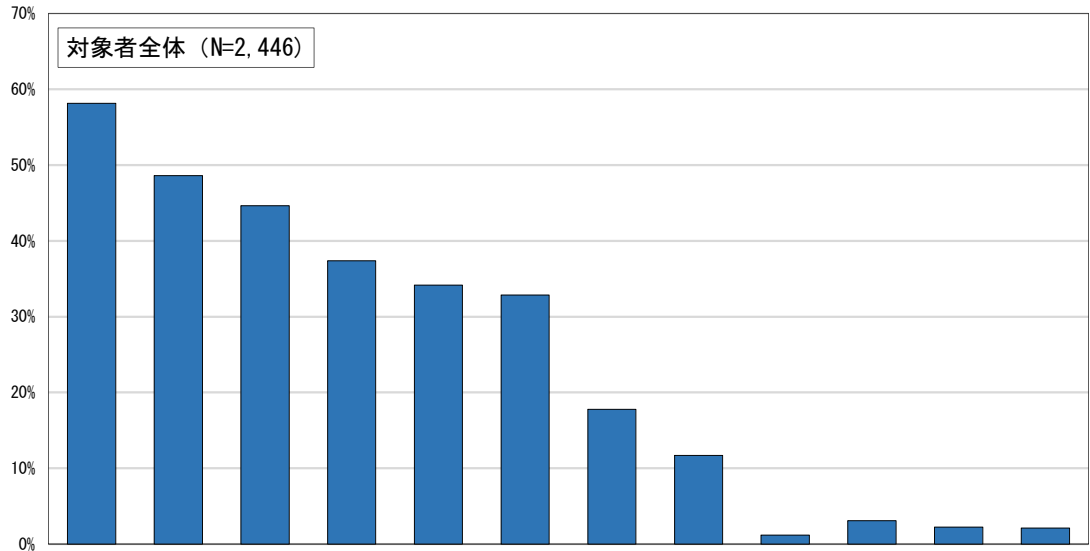
【性別】「広報さっぽろ」への掲載、「地下鉄・路線バス内の広告」、「パンフレット・リーフレットの配布」は女性が男性よりも5.4ポイント以上高くなっている。また、「ホームページへの掲載」は男性が24.6%と、女性の17.9%より6.7ポイント高くなっている。

【年代別】「地下鉄・路線バス内の広告」は29歳以下（53.6%）で最も高く、次いで30歳代（41.0%）、50歳代（33.4%）となっている。

◇食の安全・安心の確保のために札幌市に力を入れてほしい取り組み

問7 食の安全・安心の確保のために札幌市が行う取り組みのうち、あなたが力を入れてほしいことにくっでも○をつけてください。

食の安全・安心確保のために札幌市に力を入れてほしい取り組みは、「製造所や飲食店、販売店などでの衛生指導」と回答した人が 58.1%



対象者数		製造所や飲食店、販売店などでの衛生指導	わかりやすい情報の提供	食中毒予防に向けた啓発	食中毒発生時の対応	法令違反への厳しい対応	事業者の自主的な衛生管理への支援	札幌市が実施している事業の説明・PR	消費者、事業者、行政の間の情報・意見交換	その他	特にない	わからない	無回答	
(%)														
対象者全体	2,446	58.1	48.6	44.6	37.4	34.2	32.9	17.8	11.7	1.2	3.1	2.2	2.1	
性別	男性	993	53.0	45.3	43.4	35.9	36.9	29.8	17.5	10.7	1.9	4.2	1.5	1.2
	女性	1,421	62.0	51.4	45.6	38.8	32.2	35.3	17.9	12.5	0.6	2.3	2.8	2.5
	その他	8	62.5	37.5	37.5	25.0	50.0	25.0	25.0	12.5	-	-	-	-
年代別	29歳以下	194	51.0	45.9	38.7	35.6	30.4	29.9	17.5	14.9	-	4.1	1.0	1.5
	30～39歳	239	52.3	49.8	38.1	31.0	36.8	33.5	16.3	10.9	1.7	2.9	2.9	1.7
	40～49歳	372	59.7	46.0	36.6	39.0	42.7	33.1	15.3	12.6	2.2	3.5	1.6	1.1
	50～59歳	416	61.8	50.2	42.3	35.3	33.2	33.7	14.7	8.2	1.7	4.3	2.9	1.2
	60～69歳	470	61.3	52.1	45.5	38.9	31.9	32.1	19.4	11.1	0.9	3.2	1.7	1.7
	70歳以上	719	57.7	47.1	53.5	39.4	32.0	33.4	20.4	13.5	0.7	1.9	2.6	3.5

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】食の安全・安心の確保のために札幌市に力を入れてほしい取り組みは、「製造所や飲食店、販売店などでの衛生指導」が 58.1%、「わかりやすい情報の提供」が 48.6%、「食中毒予防に向けた啓発」が 44.6%となっている。

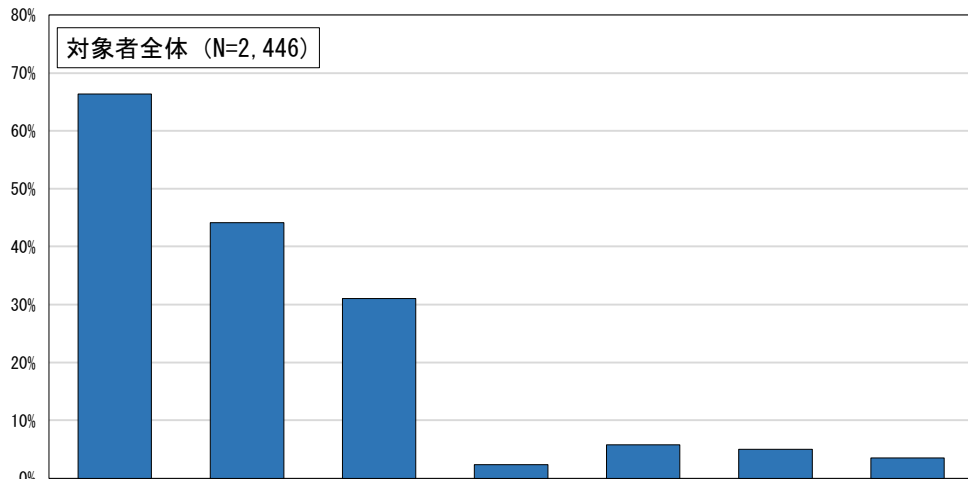
【性別】「製造所や飲食店、販売店などでの衛生指導」、「わかりやすい情報の提供」、「事業者の自主的な衛生管理への支援」は女性が男性よりも 5.5 ポイント以上高くなっている。

【年代別】「食中毒予防に向けた啓発」が 70 歳以上 (53.5%) で最も高く、最も低い 40 歳代 (36.6%) と比べると 16.9 ポイントの差となっている。

◇食の安全・安心の確保のために事業所に力を入れてほしい取り組み

問8 食の安全・安心の確保のために事業所が行う取り組みのうち、あなたが力を入れてほしいことにいくつかでも○をつけてください。

食の安全・安心確保のために事業所に力を入れてほしい取り組みは、「消費者への積極的な情報提供」と回答した人が66.4%



		対象者数	消費者への積極的な情報提供 (%)	PR (%)	食の安全・安心を推進していること (%)	札幌市が実施する食の安全・安心に関する事業や取り組みへの参加・登録 (%)	その他 (%)	特になし (%)	わからない (%)	無回答 (%)
対象者全体		2,446	66.4	44.2	31.0	2.4	5.8	5.0	3.5	
性別	男性	993	66.4	38.6	28.5	2.8	7.9	3.9	2.3	
	女性	1,421	66.3	48.3	33.3	1.9	4.4	5.8	4.1	
	その他	8	87.5	37.5	12.5	12.5	-	-	-	
年代別	29歳以下	194	63.9	37.6	29.9	1.0	8.8	5.2	1.5	
	30～39歳	239	59.8	38.1	33.1	3.3	6.7	7.5	1.3	
	40～49歳	372	67.2	41.1	30.9	3.5	7.0	5.6	1.6	
	50～59歳	416	68.3	40.1	30.5	3.1	6.3	5.3	1.4	
	60～69歳	470	67.4	48.7	34.3	1.7	5.7	3.8	3.6	
	70歳以上	719	66.6	49.4	29.2	1.5	4.0	4.5	6.5	

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】食の安全・安心確保のために事業所に力を入れてほしい取り組みは、「消費者への積極的な情報提供」が66.4%、「食の安全・安心を推進していることのPR」が44.2%、「札幌市が実施する食の安全・安心に関する事業や取り組みへの参加・登録」が31.0%となっている。

【性別】「食の安全・安心を推進していることのPR」は女性（48.3%）が男性（38.6%）よりも9.7ポイント高くなっている。

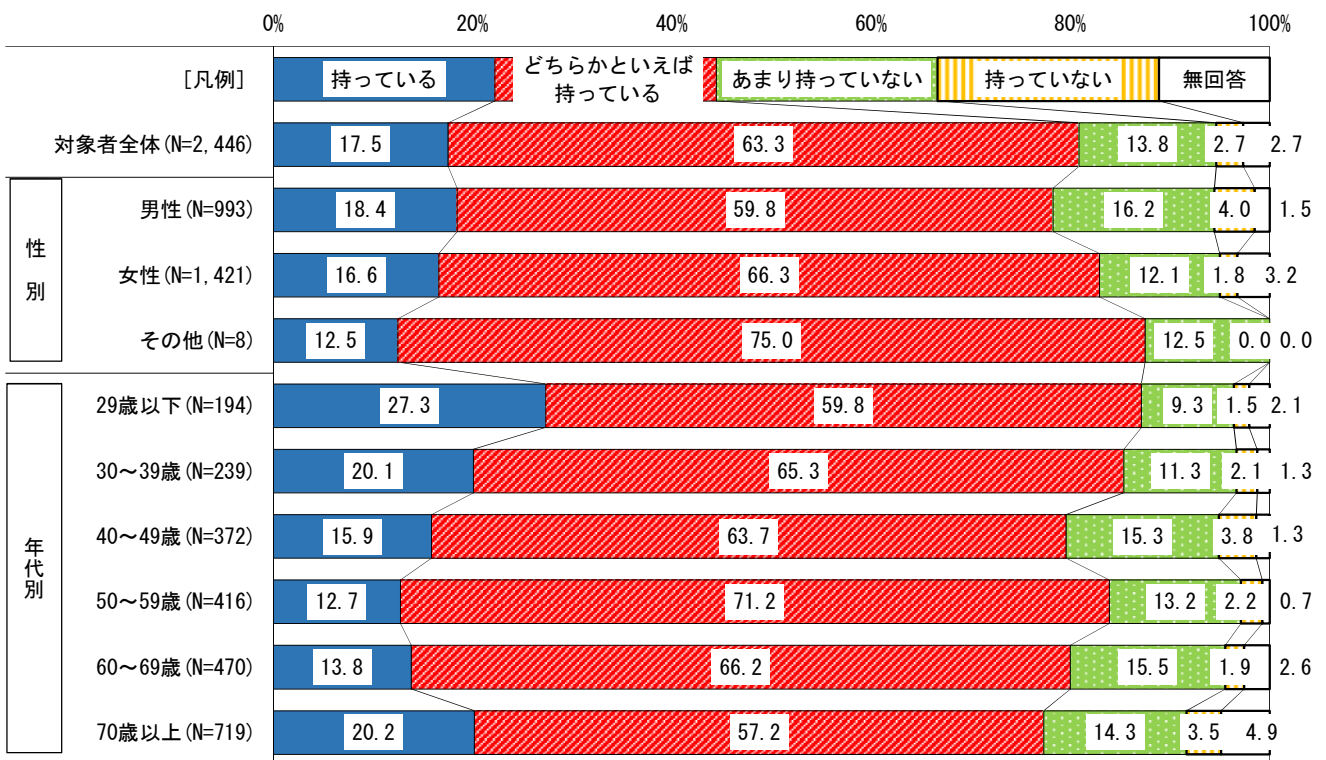
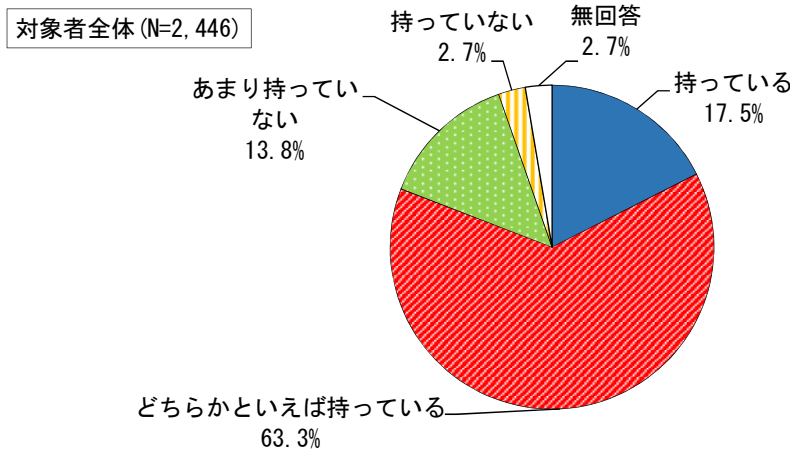
【年代別】「食の安全・安心を推進していることのPR」が70歳以上（49.4%）で最も高く、次いで60歳代（48.7%）、40歳代（41.1%）となっている。

◇「札幌の食」に対する「安全・安心」というイメージの有無

問9 あなたは「札幌の食」に対して「安全・安心」というイメージを持っていますか。次の中から、あなたがもつイメージに近いものに1つだけ○をつけてください。

**「札幌の食」に対して「安全・安心」というイメージを“持っている”と回答した人が 80.8%**

※ “持っている”（「持っている」＋「どちらかといえば持っている」）



【全体】「札幌の食」に対して「安全・安心」というイメージを持っているかは、「持っている」が 17.5%、「どちらかといえば持っている」が 63.3%、合わせると 80.9%となっている。一方で、「あまり持っていない」は 13.8%、「持っていない」は 2.7%、合わせると 16.5%となっている。

【性別】“持っていない”（「あまり持っていない」＋「持っていない」）は男性で 20.2%と、女性の 13.9%より 6.3ポイント高くなっている。

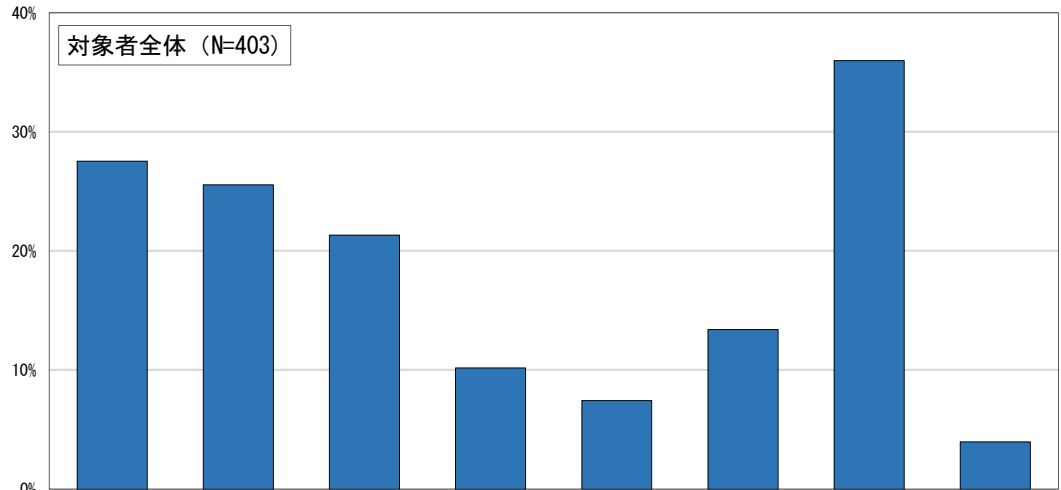
【年代別】“持っている”が 29歳以下 (87.1%) で最も高く、次いで 30歳代 (85.4%)、50歳代 (83.9%) となっている。

◇「札幌の食」に対しての「安全・安心」というイメージを持っていない理由

《問9で、「3 あまり持っていない」または「4 持っていない」と回答した方にお聞きします。》

問9-1 あなたが「札幌の食」に対して、「安全・安心」というイメージを持っていない理由は何ですか。次の中から、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

「札幌の食」に対して「安全・安心」というイメージを持っていない理由は、「賞味期限などの食品偽装事件が発生したことがあるから」と回答した人が27.5%



対象者数		対象者数 (%)	賞味期限などの食品偽装事件が発生したことがあるから	不衛生な施設が営業しているから	食品表示ミスや食品へ異物が混入する事件が発生したことがあるから	自分で調理できなかったもの以外	大規模な食中毒や、発生したことが死亡者から	その他	特に理由はない	無回答
対象者全体		403	27.5	25.6	21.3	10.2	7.4	13.4	36.0	4.0
性別	男性	201	26.9	20.9	19.4	9.0	7.0	13.9	41.3	3.0
	女性	197	28.9	29.4	21.8	11.2	8.1	13.2	31.5	5.1
	その他	1	-	100.0	100.0	-	-	-	-	-
年代別	29歳以下	21	9.5	19.0	9.5	9.5	-	9.5	57.1	-
	30～39歳	32	21.9	31.3	15.6	15.6	3.1	15.6	40.6	6.3
	40～49歳	71	18.3	35.2	14.1	4.2	11.3	19.7	35.2	2.8
	50～59歳	64	34.4	29.7	21.9	7.8	9.4	14.1	32.8	3.1
	60～69歳	82	39.0	26.8	29.3	8.5	12.2	13.4	34.1	-
	70歳以上	128	27.3	15.6	21.9	14.8	3.9	9.4	35.9	7.8

■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 ■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】「札幌の食」に対して、「安全・安心」というイメージを持っていない理由は、「賞味期限などの食品偽装事件が発生したことがあるから」が27.5%、「不衛生な施設が営業しているから」が25.6%、「食品表示ミスや食品へ異物が混入する事件が発生したことがあるから」が21.3%となっている。

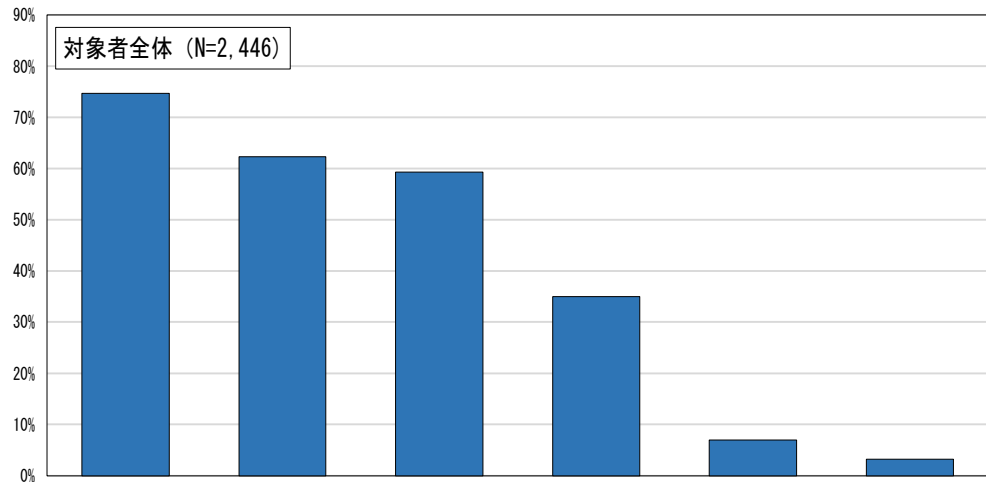
【性別】「不衛生な施設が営業しているから」は女性が29.4%と、男性の20.9%より8.5ポイント高くなっている。

【年代別】「賞味期限などの食品偽装事件が発生したことがあるから」が60歳代(39.0%)で最も高く、最も低い29歳以下(9.5%)と比べると29.5ポイントの差となっている。

◇食中毒の特徴について知っている内容

問10 上記の食中毒の特徴について、あなたが知っていることを、次の中から、いくつでも○をつけてください。

**食中毒の特徴について知っている内容は、「手や器具を介して生肉についていた菌が、サラダなどの他のメニューにうつることがあること」と回答した人が74.7%**



	対象者数	うなつ手 つどのや のいて器 こと他の具 がたを介 あメがし るユー、て にー生肉 にーダに	起下発食 こ病症し すな、て ことの腹から 胃腸、1 炎お、7 状う、日 を吐、に	こ食にが法牛 と中は、でレ 毒少の止バ 菌の鶏さし がく肉やて 着しい鶏はの しい割レい 合パい	加上鶏食 熱に肉中 す1の毒 ると分中 とよ間心 い上防 ことな部の よ7た う5め よ℃に うは、	ど れ も 知 ら な い	無 回 答
対象者全体	2,446	74.7	62.3	59.3	35.0	7.0	3.2
性別							
男性	993	65.4	59.3	56.9	28.4	10.7	2.5
女性	1,421	82.0	64.5	61.4	39.5	4.1	3.3
その他	8	87.5	100.0	75.0	62.5	-	-
年代別							
29歳以下	194	72.7	73.2	63.4	30.4	5.7	1.0
30~39歳	239	79.5	70.3	64.9	33.9	6.3	0.8
40~49歳	372	82.8	71.2	60.5	35.8	4.0	1.1
50~59歳	416	81.0	65.1	58.4	39.7	6.5	1.0
60~69歳	470	76.2	61.9	61.9	33.6	8.1	2.8
70歳以上	719	65.8	50.8	55.1	34.1	8.1	6.8
問3-1							
十分ある	134	71.6	59.7	71.6	46.3	6.7	5.2
ある程度ある	1360	79.9	66.5	65.0	41.8	4.1	3.1
あまりない	761	70.6	56.6	49.1	22.2	10.1	2.0
全くない	46	50.0	67.4	43.5	17.4	15.2	2.2

【全 体】食中毒の特徴について知っている内容は、「手や器具を介して生肉についていた菌が、サラダなどの他のメニューにうつることがあること」が74.7%、「食べてから1~7日以内に発症し、腹痛、おう吐、下痢などの胃腸炎症状を起こすこと」が62.3%となっている。

【性 別】「手や器具を介して生肉についていた菌が、サラダなどの他のメニューにうつることがあること」、「食べてから1~7日以内に発症し、腹痛、おう吐、下痢などの胃腸炎症状を起こすこと」、「食中毒予防のためには、鶏肉の中心部が75℃以上に1分間なるように加熱するとよいこと」は、女性が男性よりも5.2ポイント以上高くなっている。

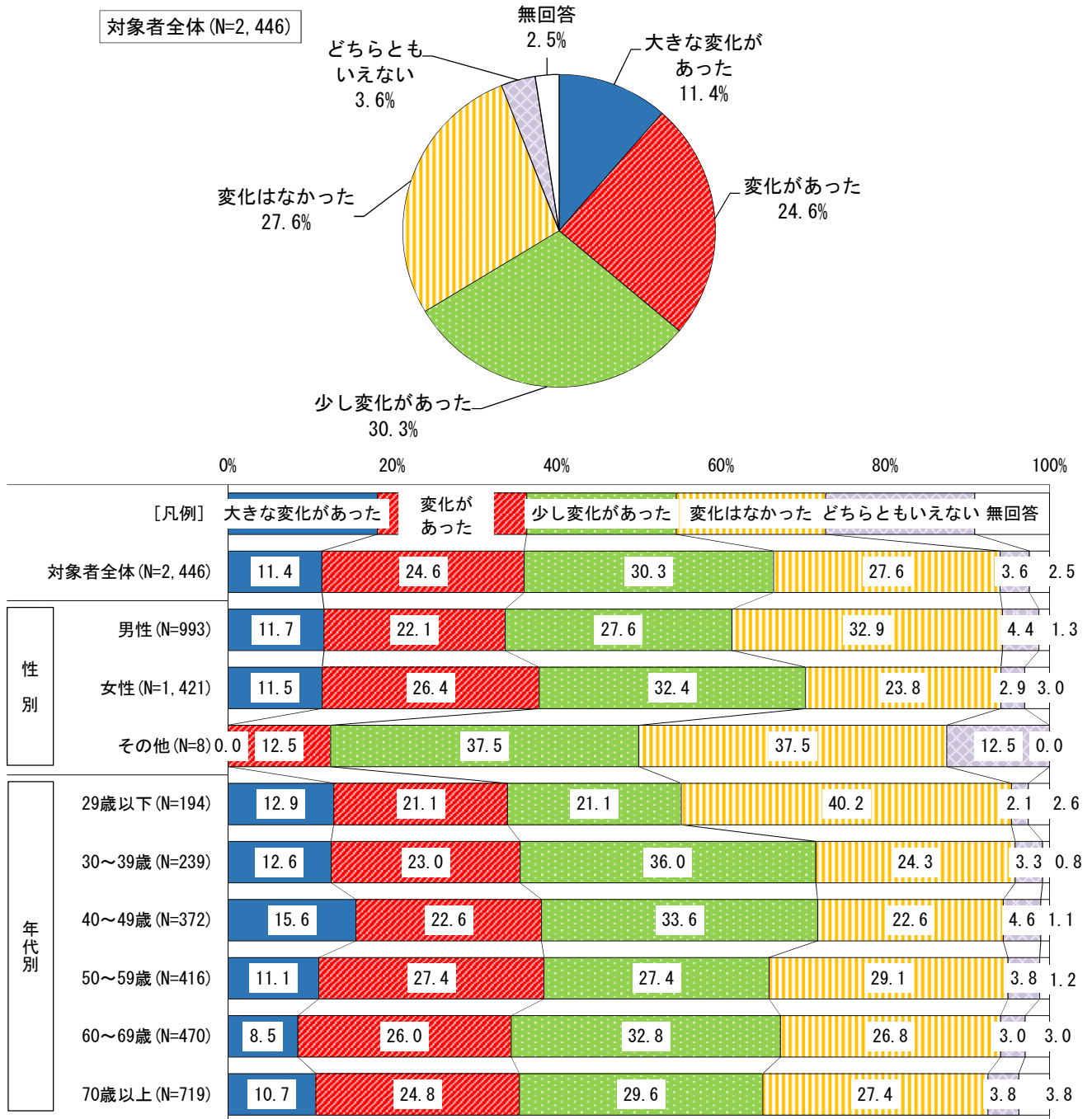
【年代別】29歳以下では「食べてから1~7日以内に発症し、腹痛、おう吐、下痢などの胃腸炎症状を起こすこと」が、30歳以上では「手や器具を介して生肉についていた菌が、サラダなどの他のメニューにうつることがあること」が最も高くなっている。

## ◇新型コロナウイルス感染症の拡大による食生活の変化

問 1 1 新型コロナウイルス感染症の拡大により、あなたの食生活には変化がありましたか。次の中から、1つだけ○をつけてください。

**新型コロナウイルス感染症の拡大による食生活の変化は、“変化があった”と回答した人が 66.4%**

※ “変化があった”（「大きな変化があった」+「変化があった」+「少し変化があった」）



【全 体】新型コロナウイルス感染症の拡大による食生活の変化は、「大きな変化があった」が 11.4%、「変化があった」が 24.6%、「少し変化があった」が 30.3%、合わせると 66.4%となっている。一方で、「変化はなかった」は 27.6%となっている。

【性 別】“変化があった”は女性が 70.3%と、男性の 61.4%よりも 8.9 ポイント高くなっている。

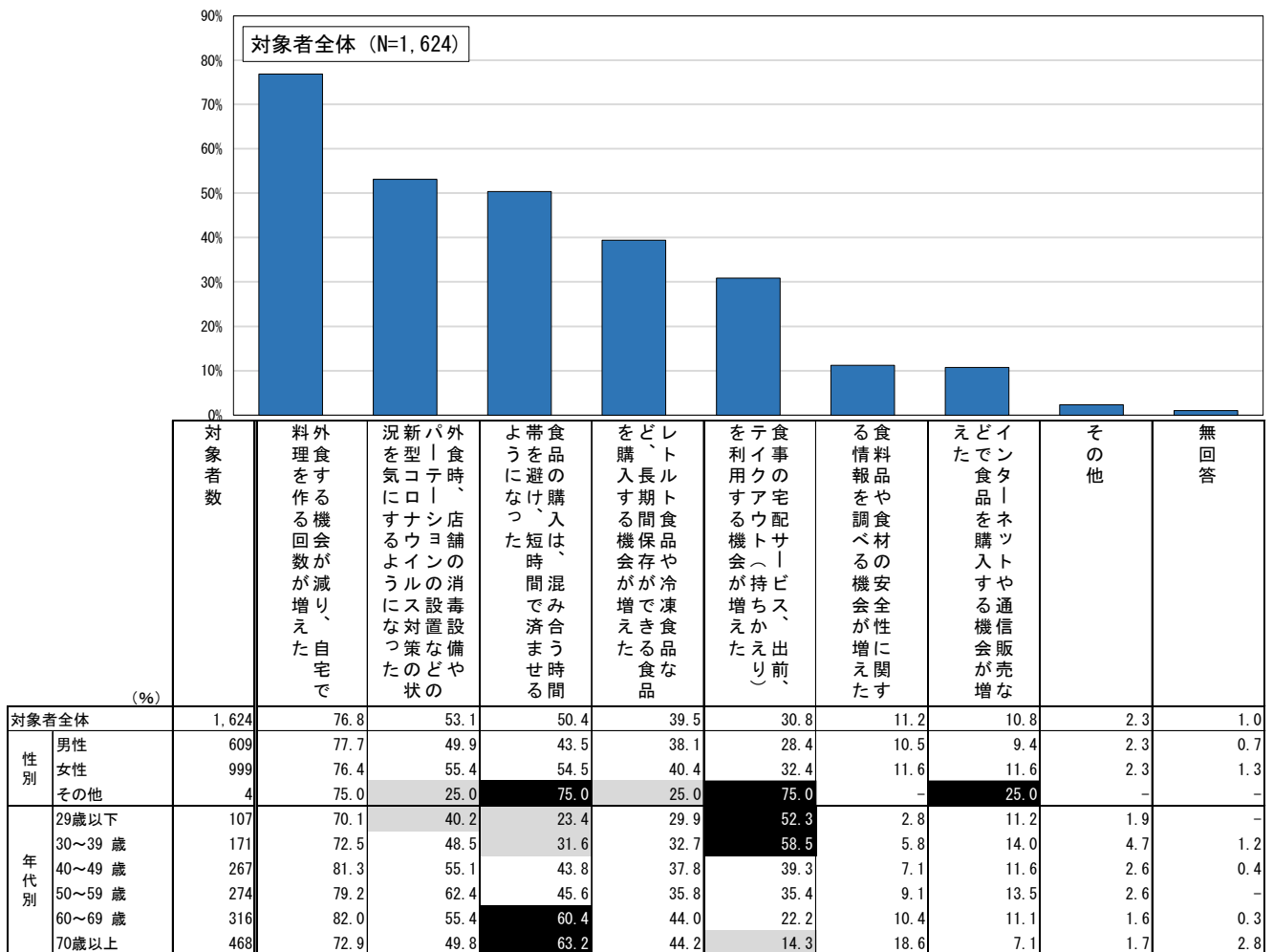
【年代別】“変化があった”は 40 歳代 (71.8%) で最も高く、最も低い 29 歳以下 (55.1%) と比べると 16.7 ポイントの差となっている。

## ◇食生活の変化の内容

《問11で、「1 大きな変化があった」から「3 少し変化があった」のいずれかに○をつけた方にお聞きします。》

問11-1 あなたの食生活の変化について、次の中から、あてはまるものにいくつでも○をつけてください。

**食生活の変化の内容は「外出する機会が減り、自宅で料理を作る機会が増えた」と回答した人が76.8%**



■ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上高い  
 □ 対象者全体の値と比較し10ポイント以上低い

【全体】食生活の変化の内容は、「外出する機会が減り、自宅で料理をする回数が増えた」が76.8%、「外出時、店舗の消毒設備やパーテーションの設置などの新型コロナウイルス対策の状況に気になるようになった」が53.1%、が50.4%となっている。

【性別】「外出する機会が減り、自宅で料理をする回数が増えた」、「食品の購入は、混み合う時間帯を避け、短時間で済ませるようになった」は女性が男性より5.5ポイント以上高くなっている。

【年代別】「食品の購入は、混み合う時間帯を避け、短時間で済ませるようになった」、「食料品や食材の安全性に関する情報を調べる機会が増えた」は、年代が上がるにつれて割合が高くなっている。